

大牟田市立歴木中学校

1 本校のESDの特徴

本校では、教育活動を通して、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「福祉体験」、「職場体験」、「保育体験」の交流体験及び進路学習から様々な課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びを通して実生活や社会で生かされる思考力・判断力・表現力を身につけることを目指しています。

生徒たちは学習を進めていく中で「考え」たり「感じ」たりしたことから課題を見つけ、班目標、個人目標を設定し、実践につなげることがねらいです。また、生徒同士や地域に住む人たちとの思いや願いを共有し、「つながり」「かかわり」を大切にしながら、地域に対する誇りを持つことで新たな自分を発見し、地域に貢献できる資質や能力を育成することを目指しています。



2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画（1年生の例）

<福祉体験学習>

○福祉体験学習オリエンテーション

- ・福祉体験学習に向けて、目的・内容・日程・心構えを学ぶ。
- ・絵本を読み、認知症についての理解を深める。

○高齢者福祉について学ぼう

- ・講師を招き、介護に対する考え方や認知症について知る。
- ・高齢者への接し方について学ぶ。

○福祉体験学習事前打ち合わせ

- ・グループごとに市内の介護福祉施設での打合せを行う。

○高齢者疑似体験学習

- ・高齢者の「こまり感」を体感し、高齢者の行動や気持ちを理解する。

○福祉体験学習事前準備

- ・自分たちで取り組む課題を考える。(活動の内容、関わり方等)
- ・課題について、解決するための取り組みを考える。
- ・準備(遊びや出し物の練習、模擬訓練)を進める。

○福祉体験学習（2日間）

- ・市内6カ所の介護福祉施設で体験学習を行う。

○学習のまとめ

- ・学習した内容を個人で「新聞」形式でまとめ、発表する。
- ・三者面談のときやユネスコスクール週間で掲示し、全校生徒や保護者に見てもらう。

3 特徴的な活動事例

高齢者及び認知症についての正しい知識と理解を深める取り組み（1年生）	
目標	○高齢者疑似体験や高齢者福祉講話学習を通して、相手の気持ちを考えようとする態度を養う。 ○相手が支援を必要としていることを理解し、実践につなげる意思を持つ。
展開	①疑似体験装具をつけ、高齢者の方々がどのような状態で過ごされているかを体験することで、相手の気持ちを考える力やコミュニケーション能力が必要であることを理解するようにした。 ②「高齢者及び認知症」について考え、高齢者の方の様子や大牟田の町作りの現状などの話を聞き、自分にできることは何かを考えるようにした。
生徒の感想	①体験をするまでは、お年寄りの方を「1～10までお世話するんだろう」と思っていました。しかし、実際に施設に行ってみると足、手、腰がわるい方がたくさんいらっしゃいましたが、自分でできることは自分でできていました。また、少しでも技能を向上させようとリハビリを頑張られている姿に感動しました。 ②おばあちゃん、おじいちゃんとお話をしたり、ゲームをしたり、歌を歌ったりして楽しめました。お話をしたりするとおばあちゃん、おじいちゃんの顔はとても笑顔になっていて、私も嬉しい気持ちになりました。 ③初めての体験だったから、最初は緊張したけれどだんだん慣れてきて高齢者の方と徐々にコミュニケーションがとれました。2日目は、ちがう方が見えられたけれど、1日目で慣れたから、自分たちでいろいろできました。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・高齢者の困り感についての概念を言葉と疑似体験を通して学習し、メインである福祉体験学習を通して、実際にお年寄りとおふれ合い、「共に生きていくこと」についてリアルな学習を積み上げることができたと考える。今回の体験学習が、困り感のある隣人に対する生徒それぞれの対応の仕方の基礎になることを見守りたい。



○課題

- ・今回の体験学習で積み上げた学習が一過性のものとなると時と共に忘れてしまうことが予想される。中学校生活3年間を通した指導計画の一貫性をもたせ、とり組んでいく必要がある。